



初學訓

四

五

口 9  
4457  
4





09  
4457  
4

初学訓考之四

貝原篤信著



名利の二の商人の好むをわたりこれともおは  
くせこのものは道にふしむさうして身おし  
しむから身ふ才学あり徳行ありかまの  
身の衰たりこれとみくらう名とじさあり  
人うけりしきんさこのむらうはう名  
おちる名はさしるいふらうはう名  
りく名とさうかよ人の只は名はさし

初学訓考



る一徳にあらざらんはもろき事なれどもその  
法より来るありし名に實の實と古人も  
とりたるは好むにえらんちひつ中しむし  
利とい財實利祿ちりつしむとい事業と  
よくはらひゆく利の求むるしてそのあり  
来らざるはこよの求むるす利と求むる  
必害ありおとらん一實とつらむるて名  
と利と必好むといひけしありの中しむし  
文學とこのとて義理とこのまじらぬ俗學

と云をくひ四書五經とあふくえん其文  
義一通し程朱の學法とあふくも義理と  
好まざるは俗學なりの中しむし  
國土より四民あり士農工商也四民皆義理  
を修するのありて利を求むるは各  
かゝりの義理と修する即人倫の道を  
修むを云是四民ともいふ利を求むるは  
わづらひたるちり是四民各々のあり  
士といふ大人より下士といふちりともいふ



一士族を以て本念の農工商とせしめ  
中なるいしめんよりたうり民に中なるいしめん  
よりいしめと凡土地と多くしきりし人  
に我の身いしりふれを以て俸給ありて書と  
私欲なく民と中なるいしめんを以て年ごと  
其家長久しく財を以てりて身の利益  
ゆへにたうりいしめんよりたうり民の賢君身  
より俸給とせしめいしめんはいしめんを以て  
さうりしありしよりいしめんは民のいしめんを以て物とゆは

給くも後よりいしめんよりたうりしよりたうりし  
よりいしめんよりたうりしよりたうりし  
下けりし士庶人よりいしめんよりたうりし  
君よりたうりしよりいしめんよりたうりし  
禄とを以てりしよりいしめんよりたうりし  
はくし其中にありしよりいしめんよりたうりし  
官職とを以てりしよりいしめんよりたうりし  
凡士のいしめんよりたうりしよりいしめんよりたうりし  
いしめんよりたうりしよりいしめんよりたうりし

今言如  
クモトテ割  
並正別  
は前モモ  
心ヲ以テ  
元モ人即  
士ナリ

初學訓四

三



さう人の民をわづねてめくそ志けりさう  
次允道よ志ゆりて義と好く公直ありあ  
情うくいつまりたてけくそわらはら全  
ちり

農ハ田にけくる民也是人と申さるるを  
の四民乃申ちり際あり何れいともいふ  
けくいしはあきく多く耕作と申すつと  
免しじく農人の天乃何よ志さるひて春  
夏秋冬乃けくあ申さるるは次又地乃

利よよりて其之は軍さ五穀をくつ種く  
田畠のちりつひく其上倭物ありて財と  
安り用され財多くとて<sup>おち</sup>貢とさる  
へ父母妻子と申ちりよとさるかみ又  
身とけくそ法度と申さるる役り  
わくそは私用とほめく士貢とさるわく  
申さじれはくそちりて父母のう種  
へたく其公も亦安樂ちり是良農也  
うちりの良農われの美民の子なりとちり



工の器物とけくは法職人たり各其職を  
けくは器物を移んころはくはり業を  
るるされい事りう人多く利と得る幸  
多し是良工也

商の利とらんくあて多くしきやくは  
くりやく人とあさじうされい人選とく  
つこときものもけあて其ことくは作  
其あさいものも多くうあよあさあは  
くことと利とけくはり多く富は得る

まやとく是良賈たり

抑もて農工商の二民の君はくはくはて禄  
たしとくはり利を求めんもくはくはと  
義理とすく利害とゆきしは天道り  
うじた人まると好まてあさい一旦の利  
と得ることくはくはくはくはくはくは  
て後のつとくはくはくはくはくはくは  
眼前の利をのけくはくはくはくはくは  
まはくはくはくはくはくはくはくはくは



るれ財と云しちよとれりしは世の家  
と中より身をけりるは其乃や人の不  
くこの世の世に於ては其乃や人の不  
後ハ又乃道也これと後ハ人となる人ハ道  
たり四時終りて百物止る其乃や人の不  
し一也なりしと見之大道のはこれ也  
いあり今多かりと人乃道これと別  
てはちて後ハ人乃道これと別  
人乃公のまては後ハ人乃道これと別

なり君父によくは人なり其乃や人の不  
も後ハ人乃道これと別  
を物なりと云はちて其乃や人の不  
あけとハ人乃道これと別  
いりたりしと見之大道のはこれ也  
後ハ人乃道これと別  
忠信と云はちて其乃や人の不  
教といはちて其乃や人の不  
也それいはちて其乃や人の不



うやうやしてあやうく来た事此のそめはをば  
 此一あそ此よをばうんさたしとらに念  
 を入るおろそろをうらなと又其  
 るよりおのたるあうのうをばしを  
 ておのこ急なる事とさうしんけしめ  
 はおたさうまはうはさたりとらあめ  
 事はしめらひたつしはさたしとら  
 けしめらひとらひちかく痛さく命なうし  
 つまよされいしとらひとらま痛ねとら

命より安楽なる所も必けしめし  
 しめらひたのまといきく後悔をしん毎  
 事は後悔するんをさとすしは悔まざる  
 ハ教よあり教の古乃聖賢のまはたり業  
 昔是よりひつる是のまはりの業事乃  
 根本ちり人生の必つしめらひとら  
 白樂天う侍り福と福しん信しん信  
 しはさるふありとら

勤ハ美るものまらしてひつるくあつとら



おこつて何事もすまらぬ備の道も勤ま  
 わされぬ終つれと申につとて忠孝の道  
 をばこぼつて人道乃大不中<sup>也</sup>也四<sup>也</sup>と申に  
 はふふ中と申たよふ申さくひひて其家  
 業とよつと申れれ各其まよ申さゆる士  
 人君つとて身とつとつみと申ちて  
 後をつとて申くのこころみれれ縁の事  
 として其申に申の農工商の家のこと  
 よくはよつと申ていつとつと申けし財と

得くを其の古語に人生いつと申にわ  
 はしむる八則と申すはつと申すは  
 天の道いつと申てやまは一日申<sup>周</sup>く申はめ  
 らふ人乃勤の天道をのりて申はめ  
 たり君子いつと申てわと申す地の道  
 たりつと申てつと申す人も申はめ  
 たりを致してつと申して申はめ  
 人乃勤の地の道と申す也  
 古語に申はめはつと申すはつと申す



にうらとつりつりあつりいはくむれハ多かり  
らと情ぢりつりいかり也人世ハ勤情の  
二つをそつり四氏もん勤と情と成志は  
しつりつり是道を行つエまぢり且  
又多し徳と成のつり道るれハ是亦人  
身のつり愛也其つり一は儉物とつり二は徳  
を成く家とつりつり一

儉物二義あり儉物乃二字成つてまやふ  
とつり一はむらりまふとつりつり一はつりつり

一ハ身のつりとはくまやふとつりつり  
あつりつり過すつり一ハ二ハ財と用ひるふ  
はまやふとつり身のつりみをまやふとつり  
なく無益のつり財とはつりやまやふとつり  
つりつりつりつりつりつりつりつりつり  
エまあり財とみまやふつりつりつりつり  
りつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
まはつりつりつりつりつりつりつりつり  
まはつりつりつりつりつりつりつりつり







家法ぬゆり道とてうしあひて儉幼法なりと  
わらうて財をみたりにはい中財とてうら  
人よかりて其利息多く出くまら家とも  
ましくかりてころう中あひ家人と申さ  
事うて器物とて人のそる人よほさ  
るゆき人の財とて返さ人の物と  
ついてはくのとてころうくおと人と  
また大かち悪くとも終つて早く  
しははーしー

思ふ事亦善なり也思ふはあつゆる也堪忍  
する法云思ふ二事あり一よはまらふに  
物とてあつて念ふに又一よはわの  
このむおんうえてしほは是念と  
この二とて持たたり念法志のよは人の  
志とて吾らよりまはさるをころゆる  
念はまらふ法私し人を好くいあるの  
本也つらとておみされていふる事  
道理よりなりといふ何先物といふに



いづる何物にの必あやまる是いづるも然るもの  
一乃るも之をちりも一も之にしてるまのいづる事  
わづらももあつたにいづるも然るものいづるに  
そとにいふ乃内ういづるもけすももことな  
物とにしていづる中も本をよくうらまえて  
えぬまのたからあやまりをり一慾をさ  
ゆりの酒食好色をたしねよそつらふよ  
ひくすたこのあつる耳目は神の欲財愛器  
物乃欲皆くうえてけしすまにじさあ

さる也念と慾との二とあつてえされの義理  
うそそじきを致れ一病を生し財とはい  
や一耻辱ととり命と失ふ其害大也凡  
身のつらひの念慾はくうえはるよるお  
ころ志りの回怒とくうえはて身をま  
とるれ父母とて種へしむる者是より大  
かなれし志りく堪忍とれいづるい  
くして喜あり古人は詩りも怒過事堪  
喜といづる堪忍とてあつてはいふありと



いふ意也志の一場忠せされん莫大乃禍と云  
程子も貪慾と申すと忠のうらしく使見有  
徳無徳と云り

富貴乃人の其らうに此いともわく人をめく  
と申く一人生の樂の人の苦悩救して  
人と樂し申しむらふありを苦悩ありて人を  
助くらうらうをくとも苦悩とる志たあり  
ハ其切ありて一人よ苦とすく先苦悩やめ  
させ人の害とのそれた人乃をとおくらうは

一財と用いとも約するも一餘財ありて  
吾身のはい念とせしめて人乃苦悩と救ふ  
一財と申しむらう程子の財とわくして  
ハ苦悩約するやわらうとせらうも悔ふ  
あう財の多々れとわくして人と救はうら  
不仁の人かり苦悩約するやうと  
道よ志ありて人のよたとめくをいひて  
毎日人は利益ありて苦悩をさうとて苦悩  
行へ必財と用らう事の多ふ少ふらうは











乃人いりても財はけりや、はくして困窮の  
 うまへのう終るゝいんや、物欲はけりいまう  
 まれいふ欲けり財禄と官位を共い病  
 とまゝ身をそら教しめて命とさうさうら  
 のい是より大ちるいな、

いはめり侍の月花とみなく風葉のいん  
 此公のそと園、あまの詩奇とめりとも  
 よれをふこのあに道、善なり是亦風雅  
 なる君子の樂也古人の教の由は自樂也

ありといつるの聖人の道の教れ内は世俗の樂  
 りあはれしてむねの樂ありは云れ欲乃樂  
 をめりいんらて身の福かなる世々る人こ  
 のいんら

凡人とある事、いんらてさうさう人の心いん  
 てみんらつるの知くもむねの人の言、あはれ  
 つまらぬ其と教のれい人を好むあはれ事  
 公直なりて善人と悪く悪人を好む人の  
 言、あはれとつらふらうらて善人と















官禄に我より下なる人と見せしむるををやとんし  
 樂しむし上なる人なうやじしむるは友縁の  
 富貴と名譽といふ天命あて生れ付るるを  
 あり申せしむる才徳に我より上なる人を見  
 てうれしむるやとんはむしむる才徳も生れ付る  
 しも若しうつらひあつてあて求むて得る  
 道理あり人の性本善といふ學問はか  
 りたよりよき道よりうつらひん  
 人といふるはいつてあつたといふとあつたといふ

より賢くしといつたなり古人も知人謂之  
 知自知謂之明といつた明は知よりほきけり  
 人の心はうたれておきてよりんは教よ知る  
 き事しむかりつる心はゆよありてんはつら  
 知やとるんくしつてあつてあつたといふん  
 うやつら身よの私ありてをの事といひつて  
 ゆる事ありあき事よりといふ事也人其  
 子のあき事とあつた事いふ事徳といふ事  
 如く明鏡もこのうらとてつたといふ事

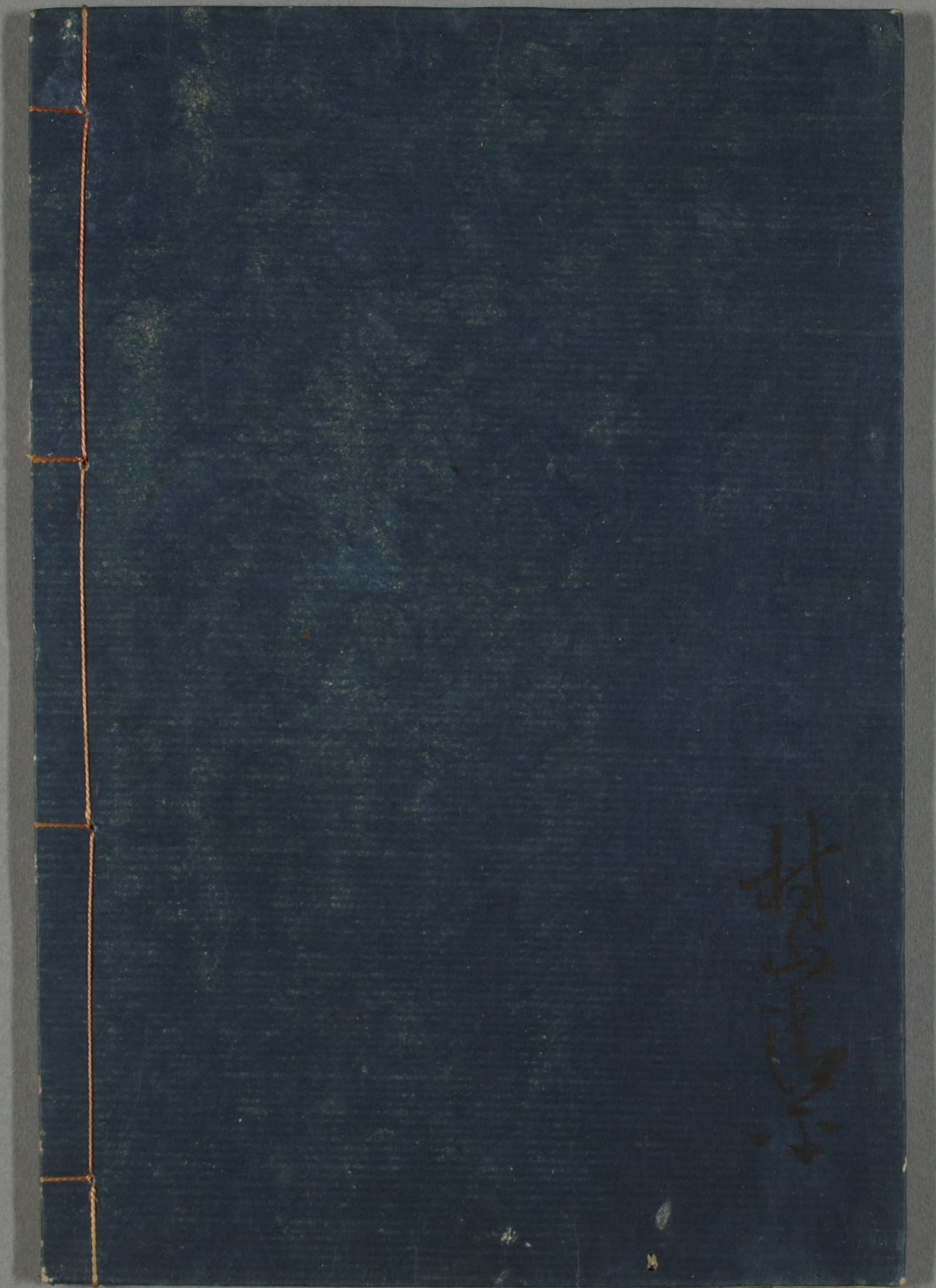












蘇子集